

# nouvelle Fontaine

vol. 46

発行日 2015年1月15日  
発行/岸和田文化事業協会〒596-0073 岸和田市岸城町5-10  
岸和田市立自泉会館内  
TEL/FAX 072-437-3801  
Email:fontaine@sensyu.ne.jp  
http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

## あれハなぞの翁ども

能楽師狂言方和泉流 小笠原 ただし 匡

新年明けましておめでとうございます。皆様お健やかに佳き新春をお迎えの事とお慶び申し上げます。

さて、新年と申しますと何を真っ先に思い浮かべますか？初詣、お年玉、お雑煮、お節料理等様々でしょうが、皆様方はこれ迄に、「翁・三番叟」(おきな・さんばそう)と云ってお目出度いとされています舞を、舞台、祝賀の会等でご覧になられた事は御座いますか？

私共能楽師にとりましては「翁」奉納にて年が改まります。

この「翁」とは能・狂言の源流を現在に伝えるもので、そのはじまりは遙か古代の祭祀にまで遡ります。

「翁」のなかで狂言方が担当するのが「三番叟」で、これは儀式的要素の色濃い祝典曲となっています。

若者の勇壮な舞である「揉の段」(もみのだん)と、老体での厳かな舞「鈴の段」の二つからなり、共に天下泰平・五穀豊穡を壽ぎ、前半の「揉の段」は、華やかに弾んだ囃子に始まり、「おおさえ、おおさえ、おお。喜びありや」と謡い出し、足拍子を踏みながら時に高く飛びあがる等、一種〈だんじり〉にも似た明るく力強い舞で、又後半の「鈴の段」は黒式尉(こくしきじょう・黒色に塗られた老人)の面をつけ、鈴を振りながら寿福を祈り舞います。

この「三番叟」解釈については諸説ありますが、一般的には神格で荘厳な白い翁に対して、滑稽にそれを真似た肉体労働者階級の躍動的な黒い翁と云われ、陰陽の関係に例えられています。

私は一昨年、翁・三番叟の源流と云われている「摩多羅神(またらしん)舞」の考証及び復元舞の型付けに携わる機会を得ました。

「摩多羅神」とは仏教の護法神で、延暦寺三世座主である慈覚大師・円仁が、唐への留学後帰国の際に船中で虚空から「摩多羅神」の声が聞こえて感得し、比叡山に常行堂を建立して勧請し、常行三昧を始修して阿弥陀信仰を始めた、と古い文献に記されています。

また恵心僧都・源信は「摩多羅神」を念仏の守護神に勧請したとも云われており“念仏修行を邪魔しに来るテングを驚かし追い払うため”に、跳ね踊り、めちゃくちゃに経文を読む儀式をおこなうなど、カーニバル的な芸能の場と結びついた神として祀りました。つまり「摩多羅神」とは、体の奥底からわき出てくる踊るエネルギーがその本質であり、やがて猿楽の芸能神とされ、翁の成立にも深く関係しているとみられております。

此様な事を考えると「三番叟」で、面を掛けずに躍動的に舞う「揉の段」は若者が土地を開墾する姿であり、黒い尉面を掛け鈴を振る翁舞「鈴の段」は、村の長である長老が種を蒔いている、農耕儀礼の舞踊化である等とも論じられてきましたが、私は「三番叟」には根源的に人々の自然に対する畏敬の念、鎮魂興発の意が深く込められているのでは無いかと考えています。

専門的な事を述べましたが、是非とも一度「翁・三番叟」へ御運び頂き、皆様方の年始恒例行事に加えて頂ければ幸いに存じます。

## 年の初めのごあいさつ

岸和田文化事業協会会長 松本 則子

新しいということはなぜか嬉しいし、なぜかおめでたい気がします。コッポリを履いて羽子板を振り回している風景はもうみられないのでしょうか。凧だってカイトになりました。「年の初めのためしとて、終わりなき世のめでたさは」というのも、もう歌われないのかなと考えていたら、突然「しろやぎさんからお手紙ついた、くろやぎさんたら読まずにたべた、しかたがないのでお手紙書いた、さっきの手紙のご用事なーに」という「やぎさんゆうびんの」の歌を思い出しました。今年の干支は未だと思っていたらこの歌が出てきたのです。今年の干支は羊で山羊ではないのです。山羊と羊の違いってわかりますか、私はわかりませんが違うそうですよ。

干支の「ひつじ」は未だけど、「ひつじ」と聞く

と未とうより、羊毛の羊をイメージしてしまします。手紙を食べてウメューと鳴いて、手紙をくれた友達を思い出して、あっ用件はなんだったのかなという、そんなのかな暮らしにも少しあこがれますが、あこがれるだけでまた今年もメールとインターネットでバタバタするのでしょう。

月や宇宙の小惑星にロケットが飛んで行く時代ですから、月で兎の餅つきなんておへそで茶をわかずよりばかばかしいのかもしれない。

でもそんな時代でもバッハやモーツァルトの音楽は生きています。さて、今年の岸和田文化事業協会が指定管理する自泉会館でどんな音楽や文化を送り出せるのか、張り切ってみます。今年もよろしくお願ひします。

歩いて岸和田のよさを知る

# 岸和田慢歩

第16回 「北町から本町まで紀州街道を歩く」

今回のスタートは、だんじりのやり回しの難所ともいわれる通称「小門・カインゲン交差点」からスタート。祭礼時には年番本部が置かれる駐車場の前を和歌山方面に曲がると、すぐに「旧和泉銀行」の建物があります。真っ直ぐ進めば、左手に「旧岸和田貯蓄銀行」の建物。しばらくいくと中央商店街、通称「かじやまち商店街」の入り口です。

そのまま進めば、塔原岸城線の広い道路に出る前に「欄干橋」がありますが、架かっていた古城川は暗渠化されたため、川面を見ることは出来ません。

道路を渡って右側に建つ堂々とした建物は、和歌山市に本店があった「旧四十三銀行」の岸和田支店のもので、現在も信用組が業務を行っています。真っ直ぐ進めば鍵型の曲がり角があり、ここが「堺口門跡」。曲がった目の前があるのが、高島屋岸和田店の跡地に建つ「堺町地車庫」です。

道なりに進み、右手に見えるのが寺田銀行の外観をモチーフにした「きしわだ自然資料館」。そして再び鍵型の曲がり角となっているのが「内町門跡」で、堺口門跡とあわせて「S字カーブ」と呼ばれる、やはりやり回しの難所として有名です。

曲がり角を抜け、こなから坂に至る交差点に建つのが岸和田市役所別館で、この前には江戸時代の城下町の様子を記した看板があり、和歌山側の駐車場が、かつて「五十一銀行」のあったところです。この辺りからは江戸時代の雰囲気を感じさせる町並みが続き、市役所別館を過ぎてすぐの左側には、吉田松陰が逗留したといわれる「久住家住居」、向かいには「円成寺」があり、少し進むと一里塚と「一里塚弁才天」、そしてゴール地点である「本町地車庫」があります。

今回のコースは距離も短く、道の起伏もないので、ウォーキングというよりも、散歩というほうがピッタリの行程です。そんな短い距離にぎっしりと詰まった岸和田の今昔を、ぶらり歩きでお楽しみください。

### ①旧和泉銀行

昭和8(1933)年に和泉銀行の本店として建てられたもので、設計は国の重要文化財である綿業会館(大阪市中央区)や自泉会館を手がけた渡辺節。寺田甚吉によって建設され、和泉銀行のち住友銀行など多くの金融機関が入店したが、平成16(2004)年に銀行としての役目を終えている。

### ②旧岸和田貯蓄銀行

大正10(1921)年に設立された岸和田貯蓄銀行が昭和10(1935)年に建設。昭和30(1955)年ころから岸和田中央会館として、現在は岸和田中央商業組合(かじやまち商店街)の事務所兼店舗として利用されている。

### ③欄干橋

元文4(1739)年に欄干付きの石造りとなり、現在の姿となったのは昭和11(1936)年。かつては「ぎぼしのある橋」「魚屋町橋」と呼ばれたこともあるらしい。石造橋の珍しさから、「石の欄干橋ドンと踏めば、にくや雪駄の緒が切れた」という俗謡もある。

### ④旧四十三銀行

大正9(1920)年の建築。内部は柱が一本もない吊天井となっていて、現在もほぼ当時のままで活用されている。設計者は不明だが、その作風から、東京駅丸の内口駅舎や日本銀行本店を手がけた辰野金吾との説もある。

### ⑤堺口門跡

堺町付近は岸和田城の外曲輪に辺り、紀州街道の大坂からの入り口が堺口門となった。敵が攻めてきたときの防御策として、道が鍵型に曲がっているのが特徴。

江戸時代は譜代大名岡部家の城下町として、明治以降は紡績業をはじめとする工業化で発展してきた岸和田市。その繁栄は市に大勢の人を集め、とくに欄干橋を中心とした界限には百貨店や映画館などが立ち並び、事業家を支援する銀行も多く設立され、賑わいをもたらしました。今回は、そんなかつての栄華を今に伝える、紀州街道沿いを紹介します。

理事  
藤田保平・齒黒猛夫

# 岸和田慢歩MAP



① 旧泉銀行



⑦ きしわだ自然資料館



④ 旧四十三銀行



⑥ 堺町地車庫

## ⑥ 堺町地車庫

岸和田町方五町(北町・魚屋町・堺町・本町・南町)のひとつ堺町の地車庫。かつてこの場所には高島屋岸和田店があった。

## ⑦ きしわだ自然資料館

昭和初期に竣工した寺田銀行の外観をモチーフにした建物で、平成7(1995)年からは自然資料館として活用されている。

## ⑧ 内町門跡

現在の本町と中町は町曲輪といわれ、大坂側からの入り口が内町門。ここも堺口門同様、道が鍵型に曲がっていて、現在は両方をあわせて、通称「S字カーブ」と呼ばれている。

## ⑨ 五十一銀行跡

現在、岸和田市役所別館となっている場所には、明治11(1878)年時代に作られた五十一銀行があり、開設当時は木造民家風の建物だったが、大正12(1923)年、レンガ造りに建て替えられる。その後、老朽化のため昭和56(1981)年に解体された。

## ⑩ 久住家住居

江戸時代末期の嘉永6(1853)年、長州藩の思想家で尊皇攘夷論者である吉田松陰が逗留したとされる。当時は塩屋兵衛門宅で、滞在中は岸和田藩儒でもあった相馬九方ほかの藩士たちと藩校講習館の一室で議論を重ねた。現在の建物は、明治30年代後半に移り住んだ久住家によって建てられたもの。昭和戦前期に大幅な改造を受け、さらに昭和50年ころの改造を経て今に至る。

## ⑪ 円成寺

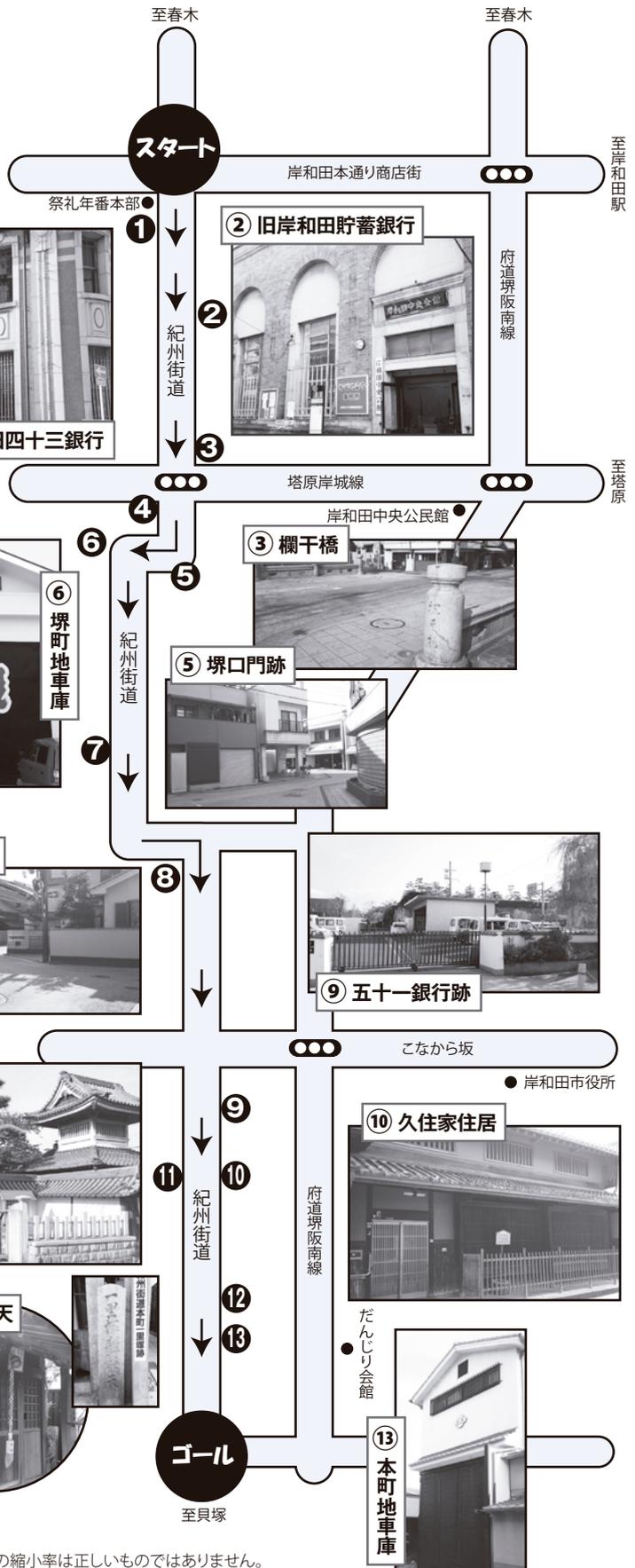
信州の武士・加藤主計が出家して釈専称と号し、諸国遍歴ののち天文5(1536)年、岸和田村に坊舎を建立。浄土真宗の布教を行ったのがはじまりとされる。浄土真宗大谷派の寺院。江戸中期に本堂、表門、庫裏などが増改築され、現在に至る。

## ⑫ 一里塚弁才天

天保7(1836)年に社殿がつくられた弁財天。もともとは一里塚に植えられていた松の下にあった小さな祠を、現在の地に遷座したとされる。一里塚自体は、紀州街道の起点である大坂高麗橋から和歌山城下までの一里(約4キロ)に設けられたもののひとつ。

## ⑬ 本町地車庫

岸和田町方五町のひとつ、本町の地車庫。



※編集の都合上、地図の縮小率は正しいものではありません。国土地理院発行やネットなどの正式な地図と照らし合わせて、散策することをおすすめします。

# まっすぐな役者魂 伸び代は無限

歌舞伎役者 上村 吉太郎



↑「供奴」(2013年4月京都南座)

生粋の岸和田っ子で、今や歌舞伎界で一目も二目も置かれる存在である上村吉太郎さんをお稽古場に伺いお話を聞かせていただきました。

## ●歌舞伎を初めて見たのはいつでしょうか。

祖父の同級生の上村吉弥さんを浪切ホールの楽屋にお訪ねしました。4歳の時です。顔を作るところから衣装を身につけて役が出来上がるまで傍で見せていただきました。

## ●未だ幼いのに、ずっと見入っていたそうですね。

お化粧をして美しく変わっていき、更に衣装を纏うと一段と美しく、男性なのにこんなに変わってしまう不思議さと驚きで目が離せませんでした。

## ●余りの熱心さに、師匠(吉弥丈)から「好き?やってみたい?」と言われて…

やってみたいと即答しました。

そして日常のお稽古は、藤間勘史卯先生にお願いすることになり、以来ずっとお稽古をつけていただいています。

## ●最もやってみたいと思ったのは、どこに惹かれてでしょうか。

美しさです。美しいところに惹かれたのが最も大きな理由です。

## ●勘史卯先生から大変なお稽古好きと伺っています。

お稽古は大好きです。発熱で学校に行けなくても、お稽古を休むことは考えられません。また、お稽古をしているうちに熱も下がってしまいます。

## ●初舞台はいつでしょう。

師匠の「みよし会」で、どんどろ大師の場で巡礼お鶴を演じたのが初舞台です。6歳でした。

## ●初舞台の気持ちはどうでしたか。

楽しかったです。舞台に立つことがとても楽しみでした。

## ●以後確実にたくさんの舞台をこなしてきていますね。(舞台歴別表)

## ●昨年11月1日にマドカホールで、片岡愛之助さんと歌舞伎舞踊の会をされました。このきっかけはどんなことでしょうか。

今、中学2年生ですが、私の周りでは歌舞伎って何?という感じです。歌舞伎が余りにも知られていないので、この世界を是非知ってもらいたいと思いました。勘史卯先生がその思いを受け止めて、岸和田市に働きかけてくださり、ちょうどマドカホール開館30周年ということで、その記念事業として取り上げていただきました。

## ●更に歌舞伎を知ってもらうための舞台も準備中と聞いています。

3月21日(土・祝)にマドカホールで予定しています。

内容は、普段の歌舞伎の舞台では見られないところを見ていただき、歌舞伎への理解と興味を持っていただける内容を用意しています。

楽屋で用意しているところ、お化粧、衣装の着付けなどを舞台上でします。また、黒御簾(注1)の音楽、ツケ打ち(注2)、殺陣などの紹介や、一部は体験などしていただき楽しく歌舞伎を理解していただける舞台にしたいと考えています。

## ●伝統芸能は、どの分野も広く親しまれてはいないのが現状でしょうが、それほど熱く歌舞伎を知ってほしいと思う理由は何でしょうか。

小学1年生の頃に、自分の気に入りの舞台の写真を学校で見せたことがあります。自分では美しいと思って見せたのですが、「これ何?」って、全く理解してもらえませんでした。隠していましたが、その後「いじめ」が長く続き、母が気付いて担任の先生に話してくれ、先生は直ぐに道德の時間に

「操り三番叟」千歳  
(2012年1月松竹座) ↓



↑「羽根の禿」  
(ときわ会 片岡我當一門勉強会)

舞台のビデオを見せて、私が何をしているのかを話してくれました。それで同級生にはしっかり理解してもらえました。

知らないことは「いじめ」も生むのだとよく分かり、歌舞伎を知って欲しいという思いをずっと強く持っていました。

また勘史卯先生は人権擁護委員でもあり、私の思いを重く受け止めて下さり機会を作ってくださいました。

●歌舞伎への理解を広めたいとの深い思い、よくよくわかりました。3月の舞台が一層楽しみです。

はい、楽しみにしてください。

●好きな役者さんは？

どなたを好き・憧れるというのではなく、それぞれの役者さんのそれぞれの良いところ、好きな所をお勉強させていただきたいと思っています。

また、江戸歌舞伎は立役、女方は固定してしまうのですが、上方歌舞伎は両方を出来ます。どちらもさせていただけの役者にならさせていただきたいと思っています。

●梨園の生まれでない吉太朗さんが、周りの方々に恵まれ真っ直ぐに伸びてこられました。めったにない幸運な星の下におられると思います。

そう思います。東京の歌舞伎座の閉場公演、新築なのでの柿落し公演にも出演させていただき、たいへん幸運なことと思っています。

また京都四条の南座で、師匠が永年続けておられる歌舞伎鑑賞教室では、師匠と「連獅子」を踊らせていただいたり、「供奴」<sup>ともやつこ</sup>、「三つ面子守」など一人で舞台上立つという幸運に恵まれています。

(注1) 舞台下手にある歌舞伎のバックグラウンドミュージックとなる音楽や効果音を演奏する場所。黒い簾の中で演奏するので観客からは見えない。

(注2) 舞台上手袖に置いた檜の板を拍子木で打ち、役者の演技に付けるもので、歌舞伎の効果音の代表。

## 上村吉太朗主な舞台歴

年月(劇場)	演目【役名】
2007年5月 (ツバハ上方)	上村吉弥自主公演 第3回みよし会 「傾城阿波の鳴門」【巡礼お鶴】
2009年10月 (大阪松竹座)	寿初春大歌舞伎 仁左衛門主演「靈験龜山鉾」【源次郎】
2009年10月	片岡我當に入門し部屋子となる
2009年12月 (京都南座)	吉例顔見世 我當主演「天満宮菜種御供」時平の七笑 【稚児松乃丸】(部屋子披露)
2010年3月 (京都南座)	三月花形歌舞伎 現猿之助主演「加賀見山再岩藤又助弟 志賀市」 【又助弟志賀市】
2010年4月 (歌舞伎座)	さよなら歌舞伎座公演御名残四月大歌舞伎 玉三郎「助六縁江戸桜」【揚巻付禿しげり】
2010年7月 (大阪松竹座)	七月大歌舞伎 元禄忠臣蔵「御浜御殿綱豊卿」【巡礼某】
2010年9月 (京都南座)	九月大歌舞伎 海老蔵主演「義経千本桜」【安徳帝】
2011年5月 (大阪松竹座)	團菊祭五月大歌舞伎 松緑主演「蘭平物狂」【繁蔵】
2011年9月 (大阪松竹座)	九月大歌舞伎 團十郎主演「勸進帳」【富樫 太刀持】
2012年2月 (大阪松竹座)	二月花形歌舞伎 染五郎主演「大當り伏見の富くじ」【禿】
2012年3月 (京都南座)	秀山祭三月大歌舞伎 「元禄忠臣蔵～御浜御殿綱豊卿」【巡礼某】
2012年9月 (大阪松竹座)	九月大歌舞伎 翫雀主演「雁のたより」【下刺の安】
2012年11月 (出石永楽館)	第五回永楽館歌舞伎「実録忠臣蔵」【大石大三郎】
2012年12月 (京都南座)	吉例顔見世興業 坂田藤十郎主演「廓文章」【禿】
2013年1月 (大阪松竹座)	寿初春大歌舞伎「操り三番叟」【千歳】
2013年2月 (大阪松竹座)	二月花形歌舞伎「南総里見八犬伝」【犬江親兵衛 誠】
2013年4月 (京都南座)	第21回南座歌舞伎鑑賞教室「供奴」【奴】
2013年6月 (歌舞伎座)	歌舞伎座新開場 柿落し六月大歌舞伎 福助「助六縁江戸桜」【揚巻付き禿】
2013年10月 (大阪松竹座)	十月大歌舞伎 愛之助・一太郎「榎茂都 三人連獅子」【子獅子】
2014年1月 (歌舞伎座)	寿初春大歌舞伎 我當主演「天満宮菜種御供」時平の七笑【松乃丸】
2014年10月 (大阪松竹座)	十月花形歌舞伎「GOEMON」【石田三成・お菊一座・佐渡】
2014年11月 (出石永楽館)	第七回永楽館大歌舞伎「神の鳥」(こうのとり)【こうのとり(子)】

(他多数)

☆幼くして好きなこと、夢中になれることと出会い、その思いを伸ばしてもらえる指導者に恵まれ存分にお稽古し、それがすべて身に付く。自分で決めたことだから頑張る、頑張れる、舞台上に立ちたいとの強い思いが吉太朗さんを貫いています。稀有な才能と幸運に恵まれた吉太朗さんの、これからの活躍を心から応援したいと思います。

# Cultural Hot Spot In Kishiwada

大阪府立久米田高等学校 ダンス部

勝ちたい! だけじゃない。  
まとまりたいんだ。

全国中学校・高等学校ダンス部  
選手権審査員特別賞受賞

中学校ダンス部選手権  
CHAMPIONSHIP

審査員特別賞 受賞



昨年8月の全国中学・高等学校ダンス部選手権で審査員特別賞を受賞された久米田高校ダンス部を訪問し、顧問の八木克容先生とお二人の生徒さんにお話しを聞かせていただきました。

## どんなスタイルのダンスを踊られているのでしょうか。

ダンスのスタイルはフリースタイルです。特に決まったダンスをするのではなく、ジャズやヒップホップなども取り入れた自由な発想で振り付けをしています。今は外部から専門の先生に来ていただいて振り付けを考えていただいています。踊るテーマは振りが決まってから決めています。

でも今回出場したダンス部選手権は「躍動」をテーマとしてエントリーし、みんなで話し合い、だんじりをイメージにして元気を目いっぱい出す踊りにしました。

## ダンス部の特徴を教えてください。

部員は現在61名です。みんなダンスは初心者で、中学校まで違うクラブをしていた人がほとんどです。練習はすごく楽しいです。キャラが濃い人ばかりが集まってくるのは、表現することが好きな人のクラブだからだと思います。また少人数で自由に踊るのではなく、全員で大会での賞を目指すクラブです。

## 今までもさまざま大会に出場されてきましたが、今回の大会はいかがでしたか。

これまでは「スモール」といって振り付けも衣装も自分たちで考える少人数で踊るダンスが中心でした。でももっと刺激を受けたいと昨年から大阪でスタジオを持ち、多くのコンクールで受賞されてきた先生に来ていただき、本格的な振り付けで大人数で踊る「ビック」に挑みました。



練習風景

## 変化の中で起こってきた悩みはありましたか。

腰などを痛める故障者が多く出ました。でもそのことが、自分たちに合った構成を考えるきっかけになったと思います。

特に7月の「ダンススタジアム」の全国大会では、必ず一番になると挑んだにも関わらず関西予選落ちをし、その悔しさは絶対に忘れることはできません。終わったあとのミーティングはみんなでいっぱい泣いて話し合いました。その中で一人一人が自分たちの立ち位置がわかるようになったのです。その時クラブを一つにまとめたのは泉本紗希部長でした。3年生は自分たちの進路に悩みながらも後輩たちのことを思い、2年生も先輩たちに答えようと励まし合いました。

そのすべての力が一つにまとまったのが8月の受賞に繋がったと思います。

## 「くめダンス」と言われるほど久米田高校ダンス部は有名ですが、これからも繋げていきたい思いはありますか。

“絆”が合言葉です。7月の大会敗北はクラブ結成10年での大きな曲がり角でした。

どんなこともみんなで乗り越えたら一生の思い出になることを経験しました。技術ではなく、心で悩む。みんなの意識を高めることで家族以上の繋がりができ、みんなのパワーが出し合っていけると思います。勝つことを目指すよりもまとまっていくこと、それが「くめダンス」です。

今回お話しを聞かせていただいた3年生の前部長の泉本紗希さんは、来春からダンスの専門学校に進学、本格的にその道を歩まれるそうです。そのあとを継いだ2年生の道上真梨奈さん、偉大な先輩たちが築いてきた「くめダンス」の歴史を、これからもさらに飛躍をさせていくと力強く語っていただきました。

今後も成長し続ける「くめダンス」を私たちも応援し続けていきたいと思っています。

(取材・文 小島栄子・本郷元子)

# Event Report

アンケートからの抜粋

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。  
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

## 岸和田能 秋の名曲を観る会

平成26年10月24日(金)午後7時～

〈皆さんの声〉

- ◆初めて見させて頂きました。また見たいと思いました。近くにこんな素晴らしい所があることに感謝です。楽しみにしております。
- ◆椅子席がもうちょっとあれば良かったです。
- ◆楽しい一時でした。客席が和室のため、脚が痛くなるのは何とかならないでしょうか。
- ◆大阪府内一古い能舞台で鑑賞でき、感激していました。地謡がとても良かったです。
- ◆音が良く通り、能はとても素晴らしかったです。ただ、客席の私語が気になりました。
- ◆見所で謡本が見れる明るさにしてください。
- ◆私には、古い言い回しや言葉で、分からないところが沢山ありました。
- ◆杉江能楽堂に来られて良かったです。立派ですね。

杉江能楽堂で、大槻文蔵氏、赤松禎友氏による能楽「通小町」を実施し、126人の入場者がありました。



## 蓄音機を使った昭和初期のレコードコンサートVol.7

平成26年10月28日(火)午後1時30分～

昭和初期にアメリカで製作された蓄音機とSPレコードを使ったコンサートを自泉会館ホールで実施し、11人の入場者がありました。

〈皆さんの声〉

- ◆各楽曲の演奏家や作曲者についての詳しい説明があればと思いました。
- ◆クラシックのレコードがありますので、利用して頂ければと思っています。
- ◆ありがとうございました。また、参加させて頂きたいと思います。

## 第42回自泉フレッシュコンサート ～名曲を訪ねて～

平成26年12月5日(金)6時30分～

〈皆さんの声〉

- ◆それぞれ皆さん素晴らしい演奏とコメントでした。こういったリサイタルには初めて来させていただきましたが、日常から解放され、とてもリラックスした良い時間を過ごさせていただきました。
- ◆優雅なひと時でした。ピアノだけでなく、歌やチューバもあり、大変良かったです。皆さんのドレス姿、とても美しく素晴らしかったです。
- ◆今日はチューバの演奏が聴けてよかったです。安い入場料で間近で精進された方々の演奏を生で聴けることは有難いことです。愛好者ももっと増えればと願っています。
- ◆フレッシュコンサートの名のとおり、若々しく素晴らしいピアノや声楽、チューバのコンサートでした。どうか、おじいちゃん、おばあちゃんになるまで、20年、30年、40年・・・と音楽活動を続けてください。
- ◆とても素敵な演奏ばかりで、感動しっぱなしでした。

ピアノ、ソプラノ、チューバのコンサートを自泉会館ホールで実施し、50人の入場者がありました。



## 平成27年干支の置き物講習会

平成26年12月9日(火) 小木曾理事に講師をお願いし、かわいい座布団付きの「ひつじの置物」を作りました。

〈皆さんの声〉

- ◆お陰さまで可愛い？のができました。
- ◆時間内に出来あがるように、丁寧に準備していただいて有難うございました。
- ◆ハンサムな「ひつじ」を夢見ていましたが、愛敬のある顔の作品になりました。
- ◆最初はどうなる事かと思いましたが、出来上がりの可愛い「ひつじ」を見て、本当に嬉しかったです。
- ◆干支作りは初めてですので、記念になりました。
- ◆自分で作ると可愛いです。来年飾るのが楽しみです。

# 岸和田文化事業協会の事業 Information

## 新春 邦楽の調べ ～乙女文楽と長唄～

大正末期に大阪で考案された、女性が一人で  
一体の人形を遣う「乙女文楽」等をお楽しみください。

日時：平成27年1月31日(土)午後2時開演

会場：岸和田市立自泉会館ホール

入場料：前売 2,000円(当日500円増)

チケット発売日：会員=12月2日(火)  
一般=12月9日(火)

出演者：吉田 光華  
今藤 和歌美  
望月 太明十郎

演目：「七福神」「茄子とかぼちゃ」「黒髪」他



## 第4回

## 自泉ジュニア コンサート



オーディションで選ばれた小学生～高校生によるコンサート

日時：平成27年3月8日(日)午後2時開演

会場：岸和田市立自泉会館ホール

入場料：無料(当日先着100名まで)



## 第8回フレッシュプレミアムコンサート ～未来へここから～

平成26年度自泉フレッシュコンサート出演者の中から優秀な方を推薦  
お披露目をいたします。  
さらに、その中から最優秀賞・優秀賞(若干名)を選出いたします。

日時：平成27年3月28日(土)午後5時開演

会場：マドカホール(岸和田市立文化会館)

入場料：前売 1,000円(当日200円増)

出演者：	的場 はるか	(ピアノ)
	中田 千恵	(ソプラノ)
	芝崎 莉緒	(ピアノ)
	真田 知香子・山上 祐未子	(ソプラノデュオ)
	尾道 幸司	(バリトン)
	西川 寛子	(ソプラノ)
	東森 文菜	(ピアノ)
	東森 洋貴・東森 文菜	(ピアノデュオ)
	古里 佳菜	(ピアノ)
	植木 瑠璃子	(ピアノ)
	原 由莉子	(ピアノ)
	山家谷 憲司	(チューバ)

## 第7回フレッシュプレミアムコンサート 最優秀賞受賞記念コンサート

### 伊石 昂平 Kohei Iseki

～未来へ輝くチェロの音色と共に～

平成25年度「第7回フレッシュプレミアムコンサート」で  
最優秀賞に輝いた伊石昂平さんのコンサートです。

日時：平成27年2月15日(日)午後2時開演

会場：岸和田市立自泉会館ホール

入場料：1,000円

出演者：伊石 昂平(チェロ)  
脇 由美子(ピアノ)

演目：ピアノとチェロのためのソナタ第3番イ長調  
Op.69(ベートーヴェン) 他



■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

## 文化 情報

日時：平成27年1月31日(土)～2月4日(水)  
(2日は休館日)

午前10時～午後5時

会場：マドカホール 展示室

入場料：無料

主催：岸和田美術の会

問合せ：岸和田美術の会事務局(あまの)

TEL072-445-1070

## 隗展

## バレエ・セッションイン・浪切 Vol.10

日時：平成27年2月15日(日)12時30分開演

会場：浪切ホール大ホール

入場料：無料

主催：バレエ・セッションイン・浪切 実行委員会

問合せ：平瀬バレエアートスタジオ(平瀬有里)

TEL072-432-7527

## nouvelle Fontaine vol.46

発行：岸和田文化事業協会

発行日：2015年1月15日

### ◆事務局

〒596-0073

岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

### ◆編集委員

小島栄子・齒黒猛夫

藤田保平・本郷元子

## 編集後記...

新年おめでとうございます。

昨年は本当に大災害の多い年でした。

新しい年が自然界も人間界も穏やかでありますように。  
災害復興のスピードを見ると、余りにも寒々としたこの  
国の政治の実情を思い知らされます。

私たち文化事業協会が、人間の尊厳を大切に、文化を  
育み心豊かな社会を作ることに、わずかでも力を尽くせ  
る存在でありたいと切に願っています。(本郷元子)

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/> 岸和田文化事業協会

検索